

高浜市は、2020年度から小学校で必修化となるプログラミング教育について、入学3年前から中学卒業までの12年間で一貫したカリキュラムの策定に取り組んでいる。教員らで

つくる推進委員会を4月に設け、モデル校に指定した市内の二つの小学校で11、12月に先行授業を実施した。

(福沢和義)

プログラミング 高浜市が独自色

吉浜小学校四年生は今年十一日、無料ソフト「スクラッチ」を使い、タブレット端末の画面上で馬や犬などのキャラクターを動かした。座標軸の数字の指示を並べ替えることで、キャラが移動。大きさを変えたりして、事前に紙に書き込んだ設計書通りに動作を指示した。総合授業の一環で、愛知教育大の学生四人が指導に当たった。

チョウを途中から一羽増やして二羽にするよう工夫した村瀬真人君(10)は「うまくチョウを回転できた。だんだん小さくするのが難しかったけど、大学生の先生に教えてもらえた」と誇らしげに語った。

指導した愛教大四年の太田智也さん(23)は「すごく興味を持って集中して取り組んでくれた」。担任の広

就学前から12年一貫教育



タブレットPCで作成した動画を見せ合つ児童ら＝高浜市吉浜小で

浜真理子教諭(23)は「大人でも難しいかなということ

をやっているけど、子どもたちは楽しんで取り組んでおり習得が早い」と、児童がふだん以上に熱心に取り組む様子に感心していた。

市は開会中の市議会十二月定例会で、来年度は取り組みを全五小学校に広げると表明。一、二年生は「ピスケット」というソフトを

使って画面上のアニメーションを操り、五、六年生は教具を用いて自律型ロボットプログラミングを実施する。

推進委メンバーで市教委の岩間基訓指導主事(48)はプログラミングの学習を通じて「順次、条件分岐、反復という思考によって不確かな時代においても問題を解決する力を身に付けてほしい」と期待する。

指導と助言 愛教大連携

プログラミング教育に詳しい愛知教育大の磯部征尊准教授(技術教育)が、指導と助言する立場で推進委員会に名を連ねた。

国や県の指針がなく、現状では各市町村の手探り状態で、その分、独自色を打ち出しやすいという。県内複数の自治体とも連携するなか、高浜市の取り組みについて「英米では五歳からプログラミング教育をやっており、高浜市の狙いはとても素晴らしい。系統的に育てていくのは世界の潮流に合致する」と指摘した。